

Title	伝統工芸イノベータを養成する
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ, 17
Issue Date	2008-03
Type	Others
Text version	publ isher
URL	http://hdl.handle.net/10119/4869
Rights	
Description	

3 今後の展望 — 新たな商品、市場を開拓する

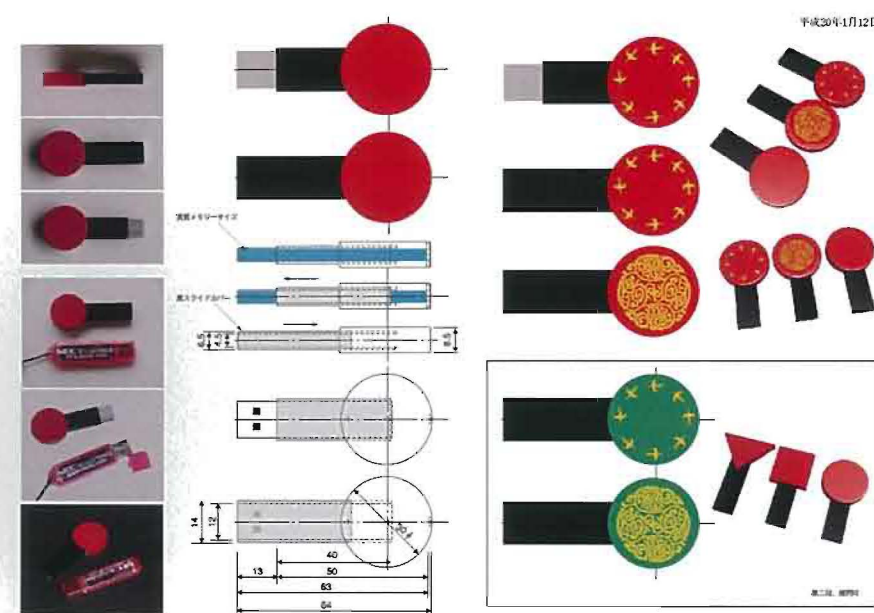
受 講者の中には、もうすでに商品の企画を始めて、試作品の製作まで進んでいる人たちがいます。受講者の間で親交を深め、アイデアを形に変えているグループもあります。

漆塗りに沈金で加飾したボールペン、漆塗りや九谷焼と組み合わせたメモリ・スティック、加賀地方の野菜・加賀五菜を盛る九谷焼の器の開発など、いくつかのアイデアが形になっています。

伝統的な工芸品の世界で勝負をかける人、工業製品との組み合わせに挑戦する人、伝統工芸によって生活を豊かにすることを提案する人 — 伝統工芸へ

の想いはさまざまですが、それを形にし、伝えようと努力しています。

石川伝統工芸イノベータ養成ユニットはまだ始まったばかりです。修了生は数十人しかいません。しかし、修了生を中心としてネットワークができて、そこそこで伝統工芸を活かした活動が広がっていくことを期待しています。何よりもまずは商品を企画し、試作し、市場に問いかけていく営みを続けて、伝統工芸の世界でひとつでも多く新しい価値を創造し、斬新でわくわくするようなシーンを展開していきたいのです。



受講者のグループが企画開発したメモリ・スティックの試作品（山中漆器の技術を活用した例）



「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」とは？

「21 世紀 COE プログラム」とは、日本に世界最高水準の研究教育拠点 (center of excellence) を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材の育成を図るため、平成 14 年度から文部科学省が実施している事業。「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」は、本学で採択された最初の COE プログラムであり、平成 15 年度から始まって今年が 5 年目、すなわち最終年度にあたる。本プログラムでは先端科学技術の研究の場、さらに社会のあらゆる状況において、イノベーションを起こすための知識創造プロセスの研究、そして、それを担う人材としての「知のコーディネータ」「知のクリエイタ」育成に取り組んでいる。文理融合を、マテリアルサイエンス研究科 (理系) と知識科学研究科 (広い意味での文系) の連携プロジェクトという形で実践している点が、本 COE の大きな特色である。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ No.17

発行 2008 年 3 月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・科学技術開発戦略センター
〒923-1292 石川県能美市旭台 1-1 知識科学研究科棟 II 7 階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ

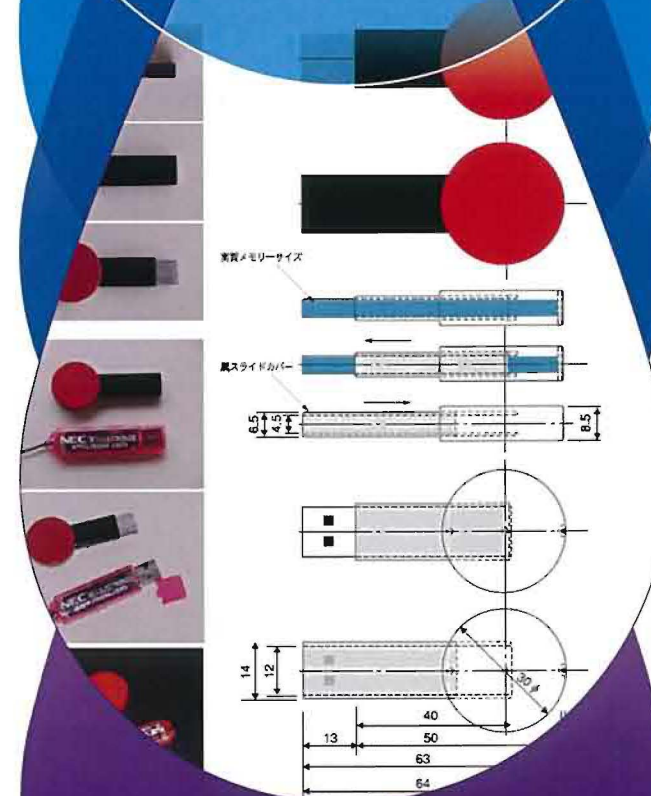
TEL : 0761-51-1839 FAX : 0761-51-1767 E-mail : coe-secr@jaist.ac.jp

本誌は、文部科学省 21 世紀 COE プログラム「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」の助成を得て発行しております。

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES

社会イノベーション・シリーズ 17

伝統工芸 イノベータを養成する



石川県は伝統工芸王国。国指定の 10 品目を含め、伝統的工芸品は 36 もあります。でも、伝統工芸のイメージは？古くさい？格式張っている？違います。伝統工芸の世界は常に革新の連続でした。JAIST では地域再生プログラムの一環として、平成 19 年から伝統工芸の世界に革新を巻き起こす人材（伝統工芸イノベータ）を養成し始めました。伝統工芸産業に従事する作家や職人、問屋さんは言うに及ばず、伝統工芸を支援する行政マンや伝統工芸ファンの一市民も参加しています。みなさんも応援してください！

TRADITIONAL CRAFT INNOVATOR

1 伝統工芸イノベータの必要性

石川県によると、県の伝統的工芸品(国指定)では、品目数が10品目で全国第6位(平成19年)、生産額が406億円で全国第3位(平成17年)、人材面では伝統工芸士が386名で全国2位、人間国宝が8名で全国2位であり、全国的に見て有数の産地であることがわかります。

しかし、県内の伝統的工芸品産業(36業種)の生産額は平成2年の1,067億円をピークに減少に転じ、平成18年には405億円にまで縮小しました。バブル期以降の生産額の減少は伝統的工芸品産業に限ったことではありませんが、このような規模の縮小は伝統工芸産業における従事者の大規模な退出につながり、産業基盤そのものの存続を危うくしています。

県では県内の伝統工芸産業が抱える課題として、1)外部環境の変化と2)産地の問題点を指摘しています。外部環境の変化としては①生活様式の変化(生活の洋式化、祭事等)、②消費者の嗜好の変化、③安価な製品の供給(100円ショップ、中国製品等)、④流通構造の変化、産地の問題点としては①問屋機能の弱体化、産地統括機能の低下、②消費者ニーズの把握力の欠乏、新製品開発力・販路開拓力不足、経営人材の不足、③知名度不足・情報提供不足、低いブランド力、④準備工程における後継者不足、原材料等の確保難を挙げています。

県の産業全体における伝統工芸産業の割合は生産額ベースで2%に満たない程度であり、経済規模から見ればそれほど大きな比重を占めているわけではありません。しかし、輪島塗、加賀友禅、山中漆器など全国に名の知られている伝統的工芸品は、文化、自然環境とともに、石川県を特色づけ、その魅力を表現する大

きな要素となっています。とくに観光産業との関係において不可欠な存在であり、県内の伝統工芸産業の衰退は一産業だけの問題には留まらないもののです。

一方、JAISTの知識科学研究科では平成15年10月より知識科学を基盤とする技術経営(MOT)コースを東京で開講し、翌年には石川県でも同コースを開講して、職業人向けリカレント教育における教育サービスにおいて経験を蓄積してきました。そこで、上述のような伝統工芸産業の状況から、伝統工芸産業に特化したMOT教育を試行し、伝統工芸産業の次代を担う人材の育成を目標とする教育プログラムの構築に着手しました。



2 伝統工芸イノベータとは

(1) 伝統工芸イノベータのイメージ

石川県の伝統工芸産業におけるイノベータ(革新者)とはどのような存在でしょうか。

そもそも「伝統」とは何でしょう? 古くから伝わる技法を技能のかたちで継承することが「伝統」でしょうか。それだけでは、現在に伝わる多くの素晴らしい技法はあみ出されなかったでしょう。先人たちが工夫に

工夫を重ね、いろいろなアイデアを試してきたからこそ、多くの技法があるはずです。つまり、伝統工芸の先人たちは技法を継承しながら、つねに革新(イノベーション)を起こしながら、伝統工芸の世界をゆたかにしてきたのです。

イノベーションとは何でしょう? シュンペーターと

いう経済学者が唱えた古典的な分類では、イノベーションには5つのかたちがあります。①新しい財貨(新しい商品)、②新しい生産方法、③新しい販路の開拓、④原料(半製品)の新しい供給源の獲得、⑤新しい組織の実現です。

これらは伝統工芸の世界にも当てはまります。魅力的な新しい作品や商品が作れる人、そのために、新しい

生産方法を考え出せる人、新しい市場を開拓し販路を拡げられる人、新しい原材料の活用挑戦する人、そして、そうした新しい活動を可能とするために組織を改革できる人、あるいは新しい組織を立ち上げられる人。

伝統工芸に関わる人々がネットワークをつくりながら、こうした動きをしていけば、きっと伝統工芸産業も発展していくはずです。

(2) 伝統工芸イノベータになるために

石川伝統工芸イノベータ養成ユニットは

① 伝統工芸 MOT コース、② 産地 MOT 実践塾、そして③ 商品開発実践プロジェクトで構成されています。

① 伝統工芸 MOT コース

新技術、新商品、新サービスの開発を企画・提案できる地域(産地)の総合プロデューサーや伝統工芸産業の再生・振興をリードする人材の育成を目標とした、延べ16日間のコースです。

必修科目の「伝統工芸とマネジメント」「伝統工芸 MOT 改革実践ゼミ」「伝統工芸と先端科学技術」及び「地域再生システム論」(JAIST 社会イノベーション・シリーズ No.16 を参照)で構成されています。平成19年度は20数名が受講しました。伝統工芸産業の従事者や、自治体職員、その他の民間事業者が参加しています。



石川県工業試験場 松山治彰主任研究員による講義

② 産地 MOT 実践塾

伝統工芸の産地において、少人数制のゼミ形式の塾を開講し、顧客ニーズに対応した伝統工芸技術の開発、商品の開発ができる人材の育成を目標とした、延べ5日間のコースです。産地の課題に特化して議論を進め、技術開発、商品企画、販路開拓などの提案ができる人材の育成を目標としています。

平成19年度は能美市で九谷焼イノベーション塾、加賀市で山中漆器イノベーション塾を開講し、各々10名程度が受講しています。



本学 近藤修司教授による講義

③ 商品開発実践プロジェクト

産地 MOT 実践塾で提案された企画を元に、企画提案を行い、実際に商品開発、販路開拓等を行い、ビジネスで成果をあげることを目標としたコースです。平成20年度から開講します。



伝統工芸 MOT コースの修了生